



教育実習の先生の道徳の授業

「千五百メートル走」



【お話】小山さんは走ることが苦手。でもクラスメートから頼まれて体育祭で千五百メートル走に出場することになった。ちょっとした話の流れで、六位に入賞すれば五千円もらうという約束を父とする。小山さんは練習に練習を重ね、見事本番では六位に入賞！しかし家に帰り、母と父から褒めてもらった後「五千円いらないわ」と言うのであった。……………教育実習生が自分の経験談を踏まえながら授業をしてくれました。

●小山さんは最初千五百メートル走がいやだったけれど、目標に向かって毎日頑張っていたので、すごく努力していたんだなと思いました。六位入賞と走りきった達成感で胸がいっぱいで、五千円をもらわなかったんだなと思います。（1の1女子）

●五千円を目標に練習を頑張っていたけれど、みんなの期待に応えたくて部活の練習を一生懸命頑張った結果が出て、五千円をもらわなかった小山さんはかっこいいと思いました。私も小山さんのように勉強をがんばるための目標を立てて、良い結果が出るように努力していきたいです。（1の1女子）

●〇〇のために頑張る、〇〇があるから頑張ろうと思うのではなく、頑張ったことはすべて自分のためになると思って頑張ろうと思いました。（1の2女子）

●ぼくは、努力は何かのためにやるのではなく、自分のために、自分を強くするためにするものだなと思いました。ぼくはこれから自分のために努力していきたいです。（1の2男子）

●お金のためではなくて、自分のチャレンジでもあり、友達からのお願いや期待でもあったから、思い切って頑張ることでいいチャレンジになったんだと思います。世の中には、お金で買えないものもあるから、それを小山さんは実感して五千円もらわなかったんだなと思いました。（1の3男子）

●最初は長距離が苦手な、体育祭に出たけれど、一生懸命努力もして長距離の本番にいんどんでいる小山さんはすごいと思いました。ご褒美のために走ることも悪くはないけれど、練習して賞を取るの、ご褒美のために走ることも絶対価値があると思います。（1の3男子）

ものやお金などのご褒美が、何かを頑張るきっかけになることはあると思います。でもそろそろどんな努力も最終的には自分の力になり自分のためになることに気づく年齢でもあります。テスト、部活動、…そして進路など、頑張してほしいことはたくさんありますが、本当に必要な力を時間はかかってもじっくりとつけてほしいですね。

